

国語科シラバス

		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
教科の目標		国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。また、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
教科における 学年目標		・自分の考えを大切にし、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にする態度を育てる。 ・必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。 ・さまざまな種類の文章を読み、内容を的確に理解する能力を高める。また読書に親しみ、ものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。	・自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて、的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉や表現力を豊かにしようとする態度を育てる。 ・さまざまな材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして論理的に書き表す能力を身につけさせるとともに、文章を書き表すことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。 ・目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。	
年間授業時数		140時間(週4時間)	140時間(週4時間)	105時間(週3時間)
学習 内容 ・ 単元	1学期	○「言葉に出会うために」 ・言語(学習の基本・詩) 1「学びをひろく」 ・物語・話す、聞く・漢字1・情報 2「新しい視点で」 ・説明文・話す、聞く・情報・文法1 3「言葉に立ち止まる」 ・詩・言葉・説明文 「読書生活を豊かに」	1「広がる学びへ」 ・詩・小説・古文・書く・漢字1 2「多様な視点から」 ・説明文・話す、聞く・情報 ・文法1 3「言葉と向き合う」 ・短歌、解説・言葉・随筆・言葉1 「読書生活を豊かに」 ・物語・読書活動	1「深まる学びへ」 ・詩・小説・漢文、解説 ・話す、聞く・漢字1 2「視野を広げて」 ・説明文・書く・文法1 「情報社会を生きる」 3「言葉とともに」 ・俳句、解説・言葉・文法言葉 「読書生活を豊かに」 ・小説・読書活動
	2学期	4「心の動き」 ・物語・記録・書く・漢字2・言葉2 5「筋道を立てて」 ・説明文・話す、聞く・書く・詩 ・漢字3 「読書に親しむ」 6「いにしへの心に触れる」 ・古文音読・古文解説・古文・漢文 7「価値を見いだす」 ・書く・漢字4・文法2・読書	4「人間のきずな」 ・小説・随筆・書く・言葉2 ・漢字2 5「論理を捉えて」 ・評論・話す、聞く・書く・詩 6「いにしへの心を訪ねる」 ・古文音読・古文・漢詩、解説 7「価値を語る」 ・評論・解説・文法	4「状況の中で」 ・詩・小説・言葉2・漢字2 5「自らの考えを」 ・論説文・話す、聞く・書く・詩 6「いにしへの心を受け継ぐ」 ・古文音読・古文・古文、解説・漢文 7「価値を生み出す」 ・論説・書く・漢字3・文法2 「読書に親しむ」
	3学期	8「自分を見つめる」 ・小説・言葉3・漢字3・書く・随筆 ・文法3・話す、聞く・詩	8「表現を見つめる」 ・小説・文法3・書く・言葉3 ・漢字3・話す、聞く・詩	8「未来へ向かって」 ・随筆・詩 ・話す、聞く、書く
評価 の 観 点		1 言葉の特徴や使い方、情報の扱い、古文や漢文の知識が身についている。(国語に関する知識・技能) 2 筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりできる。文章の内容を適切に読み取ることができる。目的や意図に応じて感じたことや考えたことを相手にわかるよう書くことができる(国語の思考力・判断力・表現力) 3 知識・技能の獲得、思考力・判断力・表現力を身に付けることに向けた粘り強い取り組みを行い、自らの学習を調整している。(主体的に学習に取り組む態度)		
評価の方法		1 授業中の態度や参加の様子(挙手・発言・話し合い・聞く態度) 2 ノート・ワーク・レポート・作品などの提出物 3 定期テスト(中間・期末) 4 小テスト、作文、スピーチ、朗読など		

都幾川中学校 第1学年「社会科」シラバス

社会科の目標

- 1 日本の歴史を中心に、その大きな流れと各時代の特色をつかむ。
- 2 広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し理解すること。
- 3 地理的な見方を身につけ、我が国と諸外国の歴史や文化との関わりを考え、国際協調の精神を養う。
- 4 身近な地域の歴史や地理、具体的な歴史遺産などを通して、興味・関心を高め主体的に取り組む。

評価の観点

- 1 我が国の国土と歴史に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
- 2 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
- 3 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。

評価の方法及び特色ある学習方法

- 授業中の態度・取り組み、発言発表等。
- ノートの取り方、プリント、ワーク等の内容・提出状況。
- まとめ、中間、期末テストや小テストなどの達成状況。(観点別評価)
- 地理的分野・歴史的分野の事象との関連を常に意識した授業の工夫を図る。

	学習の内容	学習のねらい
1 学 期	○地理の学習 ○世界のすがた	・世界の国々の特色について ・さまざまな地図をもとに、長所と活用方法を理解する。 ・地球儀と地図の違い、経度、緯度などの基本的な事項を理解する。 ・世界の地域区分と国の形や国名の由来から国を理解する。 ・日本の国土の位置をさまざまな方法で示す。また、周辺の国との関連を領土問題を含んで考える。
	○日本のすがた	・人々の生活と環境との関わりや、さまざまな条件のもとで多様な生活を営んでいることを理解するとともに、異なる文化や宗教等もとらえる。 ・歴史の大きな流れをつかむ。 ・年代、時代区分など歴史的事項を理解する。
	○世界各地の人々の生活と環境	
2 学 期	○歴史のとらえ方	
	○世界の古代文明と日本列島の誕生	・古代文明のおこりや日本列島における人々の生活の開始、古代国家の形成と発展のあらましを東アジア世界との関連で理解する。 ・聖徳太子の政治から大化の改新を経て確立した律令国家の変遷を理解する。大陸文化の影響を受け、仏教色豊かな文化が生まれていったことを理解する。律令国家のしくみが整えられ、その後天皇・貴族の政治が展開されるようになる流れを理解する。
	○古代国家の歩みと東アジア世界	・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各地域の特色と他地域とのつながりを多角的に考察する。
3 学 期	○世界の諸地域	
	○武士の政権の成立 ○ユーラシアの動きと武士の政治の展開	・武士が台頭し武家政権へつながる過程を理解する。また、武家社会が発展する中で、幕府と朝廷との関係、封建制度の変化などから多面的に考察する。

都幾川中学校 第2学年「社会科」シラバス

社会科の目標

- 1 日本の歴史を中心に、その大きな流れと各時代の特色をつかむ。
- 2 広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し理解すること。
- 3 地理的な見方を身につけ、我が国と諸外国の歴史や文化との関わりを考え、国際協調の精神を養う。
- 4 身近な地域の歴史や地理、具体的な歴史遺産などを通して、興味・関心を高め主体的に取り組む。

評価の観点

- 1 我が国の国土と歴史に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
- 2 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
- 3 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。

評価の方法及び特色ある学習方法

- 授業中の態度・取り組み、発言発表等。
- ノートの取り方、プリント、ワーク等の内容・提出状況。
- まとめ、中間、期末テストや小テストなどの達成状況。(観点別評価)
- 地理的分野・歴史的分野の事象との関連を常に意識した授業の工夫を図る。

	学習の内容	学習のねらい
1 学 期	○ヨーロッパ人との出会いと全国統一 ○江戸幕府の成立と対外政策 ○産業の発達と幕府政治の動き ○地域調査の手法	・ヨーロッパ人の来航の背景を新航路の開拓を中心に考え、鉄砲とキリスト教の伝来が日本に与えた影響を理解する。 ・江戸幕府成立の経緯と政治制度のあらましと幕府による統制制度・身分制度・産業の発達と政治改革について理解する。 ・身近な地域の自然や人口、産業、交通などについて調べる方法や地形図の読み取り方を身につける。
2 学 期	○日本の地域的特色と地域区分 ○日本の諸地域 ○地域の在り方	・日本の地域的特色を他の事象と関連づけて理解する。 ・世界的視野から見た日本の地域的特色や日本全体の視野から見た国内の諸地域の特色を多角的に捉える。 ・九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方の各地域の特色と他地域とのつながりを多角的に考察する。 ・身近な地域にはどのような課題があるのかを考察し、その解決策をまとめ、地域の将来像を提案する。
3 学 期	○開国と近代日本の歩み	・日本の近代社会に大きな影響を与えた欧米諸国の近代革命及び産業革命による社会情勢の変化について理解する。また、列強のアジア進出による江戸幕府への影響を捉え、開国から幕府滅亡に至る経過を理解する。 ・明治新政府の諸改革の特色を考える。明治維新によって人々の生活が大きく変化したことや近代国家への歩みを進めたことを理解する。海外への進出の流れも理解する。

都幾川中学校 第3学年「社会科」シラバス

社会科の目標

- 1 個人の尊厳と人権尊重の意義を広い視野から考え理解するとともに民主主義に関する理解を深め、国民主権を担う公民 として必要な資質を養う。
- 2 歴史や現代の民主政治、経済活動等についての理解を深め、社会の諸問題に関し自ら考えようとする態度を育てる。
- 3 世界平和の実現と人類の福祉の増大のため、各国が相互に主権を尊重し、協力し合うが大切であることを理解する。
- 4 歴史や現代社会に関する関心を高め、適切な資料選択・収集を通し、情報等を公正に判断し、適切に表現する。

評価の観点

- 1 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
- 2 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
- 3 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。

評価の方法及び特色ある学習方法

- 授業中の態度・取り組み、発言発表等。
- ノートの取り方、プリント、ワーク等の内容・提出状況。
- まとめ、中間、期末テストや小テストなどの達成状況。(観点別評価)
- 地理的分野・歴史的分野・公民的分野の事象との関連を常に意識した授業の工夫を図る。

	学習の内容	学習のねらい
1 学 期	○二度の世界大戦と日本	・第一次世界大戦の原因や概要についてや、帝国主義の背景等についても理解する。 ・大正デモクラシーや多くの民衆運動を通して大正時代の様子について理解する。 ・世界恐慌の原因と経過、各国の対応を通して日本の大陸進出や軍国主義化の経緯を理解する。 ・第二次世界大戦の原因や概要について理解する。 ・戦後の民主化と再建、国際社会への復帰、冷戦、高度経済成長を経て現在の日本の実情について多面的に理解する。 ・社会と国民生活の変化を捉え現代社会の特色や課題について多面的・多角的に理解する。
	○現代社会と私たち	
2 学 期	○個人の尊重と日本国憲法	・日本国憲法の基本原理を社会の形成者の立場から捉え、個人の尊厳と本質的平等・自由と権利、義務等について理解する。 ・国会を中心とする日本の民主政治の仕組みや政党の役割、議会制民主主義について理解する。 ・経済活動が人間生活の維持向上のために欠かせないことを理解し、市場経済の特色・企業の役割と責任についても考える。
	○現代の民主政治と社会 ○私たちの暮らしと経済	
3 学 期	○地球社会とわたしたち	・国際社会が抱える諸問題について関心を高め、様々な資料を適切に収集・選択し多面的多角的に考察する。また、国際社会における日本の役割やあり方について考える。 ・持続可能な社会を形成するために解決すべき課題を見だし意欲的に探求しながら自分たちにも何ができるか考える。 ・地理的分野及び歴史的分野について復習を行い、ポイントをおさえる。
	○より良い社会をめざして ○地理・歴史の復習	

●数学の目標

- ①数量や図形などの基礎的な概念や原理・法則を理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- ②数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

●評価の観点

①数学的な知識・技能

数量や図形などについての基礎的な考え方を理解するとともに、数学的に表現・処理することができる。

②数学的な思考・判断・表現

数学を活用して事象を論理的に考え、数量や図形の性質を発展的にとらえ、事象を的確に表現することができる。

③主体的に学習に取り組む態度

数学のよさを実感し、粘り強く考え、数学を生活や学習に活用しようとしている。

●おもな評価方法

①授業中の取組、意欲、態度

発表、発言、挙手や授業に臨む姿勢から評価します。

②ノート（プリント）

黒板に書いたことは基本的にすべて書きましょう。

③定期テストや小テスト

数学的な知識・技能や思考・判断・表現などを見ます。

④宿題や提出物

期限内にしっかりと取り組み、提出をする。

●授業の受け方・学習の進め方

- ①先生や発言者の話をよく聞き、授業に集中し、今日学習したことは、今日中に理解する。
- ②忘れ物をしない。宿題は必ず行う。
- ③分からないところはそのままにしない。
- ④学び合い学習を充実する。

●学習のねらい

	学習する単元	ねらい
1 学期	正の数・負の数	正の数や負の数について具体的な場面での活動を通して理解し、その四則計算ができるようにする。
	文字の式	文字を用いて関係や法則を敷きに表現したり、式の意味を読み取ったりする能力を培うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。
2 学期	方程式	方程式について理解し、一元一次方程式を用いることができるようにする。
	変化と対応	具体的な事柄の中にある二つの数量の変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係を見だし考察する能力を伸ばす。
	平面図形	基本的な図形を見通しをもって作図する能力を伸ばすとともに、平面図形についての理解を深める。
3 学期	空間図形	図形を観察、操作や実験を通して考察し、空間図形についての理解を深める。また、図形の計量についての能力を伸ばす。
	データの活用	調べたい事柄について目的に応じた資料を収集し、整理し、物事を判断したり説明したりする能力を伸ばす。

●数学の目標

- ①数量や図形などの基礎的な概念や原理・法則を理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- ②数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

●評価の観点

①数学的な知識・技能

数量や図形などについての基礎的な考え方を理解するとともに、数学的に表現・処理することができる。

②数学的な思考・判断・表現

数学を活用して事象を論理的に考え、数量や図形の性質を発展的にとらえ、事象を的確に表現することができる。

③主体的に学習に取り組む態度

数学のよさを実感し、粘り強く考え、数学を生活や学習に活用しようとしている。

●おもな評価方法

①授業中の取組、意欲、態度

発表、発言、挙手や授業に臨む姿勢から評価します。

②ノート（プリント）

黒板に書いたことは基本的にすべて書きましょう。

③定期テストや小テスト

数学的な知識・技能や思考・判断・表現などを見ます。

④宿題や提出物

期限内にしっかりと取り組み、提出をする。

●授業の受け方・学習の進め方

- ①先生や発言者の話をよく聞き、授業に集中し、今日学習したことは、今日中に理解する。
- ②忘れ物をしない。宿題は必ず行う。
- ③分からないところはそのままにしない。
- ④学び合い学習を充実する。

●学習のねらい

	学習する单元	ねらい
1 学期	式の計算	事象の中に数量の関係を見出し、それを文字を用いた式に表現し活用する能力を伸ばす。また、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。
	連立方程式	連立二元一次方程式について理解し、それを用いることができるようにする。
2 学期	一次関数	具体的な事柄の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して一次関数について理解するとともに関数関係を見出し、表現し考察する能力を養う。
	図形の調べ方	観察、操作や実験を通して、基本的な平面図形の性質を見出し、平行線の性質を基にして、それらを確かめることができる。
3 学期	図形の性質と証明	平面図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察する能力を養う。
	場合の数と確率	具体的な事柄についての観察や実験を通して、確率について理解する。
	箱ひげ図とデータの活用	四分位範囲や箱ひげ図より統計的な手法を学び考察する力を養う。

●数学の目標

- ①数量や図形などの基礎的な概念や原理・法則を理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- ②数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

●評価の観点

①数学的な知識・技能

数量や図形などについての基礎的な考え方を理解するとともに、数学的に表現・処理することができる。

②数学的な思考・判断・表現

数学を活用して事象を論理的に考え、数量や図形の性質を発展的にとらえ、事象を的確に表現することができる。

③主体的に学習に取り組む態度

数学のよさを実感し、粘り強く考え、数学を生活や学習に活用しようとしている。

●おもな評価方法

①授業中の取組、意欲、態度

発表、発言、挙手や授業に臨む姿勢から評価します。

②ノート（プリント）

黒板に書いたことは基本的にすべて書きましょう。

③定期テストや小テスト

数学的な知識・技能や思考・判断・表現などを見ます。

④宿題や提出物

期限内にしっかりと取り組み、提出をする。

●授業の受け方・学習の進め方

- ①先生や発言者の話をよく聞き、授業に集中し、今日学習したことは、今日中に理解する。
- ②忘れ物をしない。宿題は必ず行う。
- ③分からないところはそのままにしない。
- ④学び合い学習を充実する。

●学習のねらい

	学習する単元	ねらい
1 学 期	式の展開と 因数分解	文字を用いた簡単な多項式について式の展開や因数分解ができるようにするとともに、目的に応じて式を変形できる。
	平方根	正の数の平方根について理解し、それを用いることができるようにする。
	二次方程式	二次方程式について理解し、それを用いることができるようにする。
2 学 期	関数 $y = ax^2$	具体的な事柄の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見出し、表現し考察する能力を伸ばす。
	図形と相似	図形の性質を三角形の相似条件を基にして確かめ、論理的に考察し、表現する能力を伸ばす。
	円の性質	円周角の定理など、円の性質について理解し、それを用いることができるようにする。
3 学 期	三平方の定理	三平方の定理について理解し、それを用いることができるようにする。
	標本調査と データの活用	調査の方法について理解できるようにする。

都幾川中学校 第1学年 理科 シラバス

●理科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。

●評価の観点

- 1 自然の事物・現象に着目し、その性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。
- 2 自然の事物・現象についての問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究している。
- 3 自然の事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

●評価の方法

授業中の態度や発言・発表のようす、観察・実験の技能、ノートやレポートなどの提出物、中間・期末テストや小テストなどを総合的に評価します。

●特色ある学習方法

- ・観察や実験、話し合い活動の重視
- ・レポート作成の重視
- ・ICTの積極的な活用
- ・探究学習の実施

●時間

- ・1学期 週3時間
- ・2学期 週3時間
- ・3学期 週3時間

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	単元1 いろいろな生物とその共通点 1 生物の観察と分類のしかた 2 植物の分類 3 動物の分類	いろいろな生物の特徴を見いだして生物のからだの基本的なつくりを理解し、見いだした特徴にもとづいて生物を分類するための技能を身につけるとともに、思考力、判断力、表現力を身につける。
	単元2 身のまわりの物質 1 身のまわりの物質とその性質	物質の性質や溶解、状態変化について理解し、それらの観察、実験などに関する技能を身につけるとともに、思考力、判断力、表現力を身につける。
	2 気体の性質 3 水溶液の性質 4 物質の姿と状態変化	
2 学 期	単元3 身のまわりの現象 1 光の世界 2 音の世界 3 力の世界	光、音、力など、日常生活や社会とのかかわりの深い事例に対して興味・関心を高め、これらに関する観察、実験を通して、科学的な資質・能力を身につける。
	単元4 大地の変化 1 火をふく大地 2 動き続ける大地	小学校の学習経験をもとに、観察・実験を通して、そこで生起する地学的事象に関心をもち、それらの事象は長大な時間と広大な空間の中でたがいに関連をもちながら、絶えず変化してきたものであることを知る。また、大地は絶えず変動するという科学的な見方・考え方を身につける。
	3 地層から読みとる大地の変化	
3 学 期		

都幾川中学校 第2学年 理科 シラバス

●理科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。

●評価の観点

- 1 自然の事物・現象に着目し、その性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。
- 2 自然の事物・現象についての問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究している。
- 3 自然の事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

●評価の方法

授業中の態度や発言・発表のようす、観察・実験の技能、ノートやレポートなどの提出物、中間・期末テストや小テストなどを総合的に評価します。

●特色ある学習方法

- ・観察や実験、話し合い活動の重視
- ・レポート作成の重視
- ・ICTの積極的な活用
- ・探究学習の実施

●時間

- ・1学期 週4時間
- ・2学期 週4時間
- ・3学期 週4時間

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	単元1 化学変化と原子・分子	化学変化における物質の変化やその量的な関係について、原子や分子のモデルと関連付けて微視的に捉えて理解し、それらの観察、実験などに関する技能を身につけるとともに、思考力、判断力、表現力を身につける。
	1 物質のなり立ち	
	2 物質どうしの化学変化	
	3 酸素がかかわる化学変化	
	4 化学変化と物質の質量	
2 学 期	5 化学変化とその利用	細胞レベルで見た生物の共通点と相違点に気づかせ、生物と細胞、植物と動物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして理解し、それらの観察・実験などに関する技能を身につけるとともに、思考力、判断力、表現力を身につける。
	単元2 生物のからだのつくりとはたらき	
	1 生物と細胞	
	2 植物のからだのつくりとはたらき	
	3 動物のからだのつくりとはたらき	
3 学 期	4 刺激と反応	雲画像、模式図および天気図などの読みとりを通して気象現象とその変化についての認識を深め、気象変化を予測できるようにする。
	単元3 天気とその変化	
	1 気象の観測	
	2 雲のでき方と前線	
	3 大気の動きと日本の天気	
3 学 期	単元4 電気の世界	電流回路などの実験を通して、電流や電圧の概念を理解し、電流の磁気作用、静電気や陰極線に関する実験を通して、電流と磁界の相互作用、静電気の基本的な性質、電流の正体について理解する。
	1 静電気と電流	
	2 電流の性質	
3 学 期	3 電流と磁界	

都幾川中学校 第3学年 理科 シラバス

●理科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。

●評価の観点

- 1 自然の事物・現象に着目し、その性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。
- 2 自然の事物・現象についての問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究している。
- 3 自然の事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

●評価の方法

授業中の態度や発言・発表のようす、観察・実験の技能、ノートやレポートなどの提出物、中間・期末テストや小テストなどを総合的に評価します。

●特色ある学習方法

- ・観察や実験、話し合い活動の重視
- ・レポート作成の重視
- ・ICTの積極的な活用
- ・探究学習の実施

●時間

- ・1学期 週4時間
- ・2学期 週4時間
- ・3学期 週4時間

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	単元1 化学変化とイオン 1 水溶液とイオン	水溶液の電気伝導性、中和反応、電池の仕組みについて、イオンのモデルと関連付けて微視的に捉えて理解する。
	2 酸、アルカリとイオン	
	3 化学変化と電池	
2 学 期	単元2 生命の連続性 1 生物の成長と生殖	生物の成長とふえ方の特徴や、遺伝の規則性、および長い時間の経過のなかで生物は変化して多様な生物の種類が生じてきたことを見いだして理解する。
	2 遺伝の規則性と遺伝子	
	3 生物の多様性と進化	
3 学 期	単元3 運動とエネルギー 1 物体の運動	運動の規則性やエネルギーの基礎を、身のまわりの物体の運動などの観察や実験を通して見いだす。
	2 力のはたらき方	
	3 エネルギーと仕事	
3 学 期	単元4 地球と宇宙 1 地球の運動と天体の動き	身近な天体観測の観察や資料をもとに、宇宙の広がりや太陽などの恒星と惑星の違い、太陽系の構造と地球の運動と天体の見え方について理解を深める。
	2 月と金星の見え方	
	3 宇宙の広がり	
3 学 期	単元5 地球と私たちの未来のために 1 自然のなかの生物	エネルギー資源の有効利用の重要性や、科学技術の発展の過程や科学技術が人間生活に貢献してきたことの認識を深めるとともに、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解し、地域の自然災害をとり上げ、自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について、科学的に考察し、適切に判断する態度を身につける。
	2 自然環境の調査と保全	
	3 科学技術と人間	
	終章 持続可能な社会をつくるために	

都幾川中学校 第1学年 「英語科」 シラバス

教科の目標

- * 基本的な英語の働きを理解し、簡単な語句や文を用いてコミュニケーションをとることができる。
- * 英語への関心を高め、主体的に学び、コミュニケーションを図ろうとする。

評価の観点・方法

- 【○評価の観点・☆評価方法】
- 知識・技能
- ☆定期テストによる評価
 - ☆単語・基本文テスト
 - ☆音読テスト
 - ☆パフォーマンステスト
 - ☆レポートによる評価
- 思考・判断・表現
- ☆定期テストによる評価
 - ☆パフォーマンステスト
 - ☆レポートによる評価
- 主体的に学習に取り組む態度
- ☆授業中の取り組みや活動・発表の様子
 - ☆提出物や課題等による評価
 - ☆パフォーマンステスト

特色ある学習方法

- 生徒一人一人が積極的、意欲的に取り組むことができるよう、教材の工夫や教具の充実を図る。
- ALTとの会話を積極的に全員が楽しく行えるような場面設定の工夫
- フォニックスなど音を重視した学習指導の工夫
- CDやビデオ、プロジェクター等の視聴覚機器を利用した学習の工夫
- 音読を重視した学習指導の工夫
- 場面に応じた自己表現活動の工夫

	学習すること	学習のねらい
一 学 期	・ 小学校で習った英語表現、アルファベットの名前と音、大文字・小文字 ・ 英和辞典の使い方と構成要素 ・ be 動詞、一般動詞 ・ This is ..., 助動詞 can ・ what, who, how, when, where 前置詞 ・ 命令文 What + 名詞 ...? ・ 1 学期の学習事項のまとめ	・ 小学校で習った表現を使ったり、単語を読んだり、書き写したりすることができる。 ・ 英和辞典の見出し語配列について知り、基本的な使い方を理解する。 ・ 自分のことを伝えたり、相手のことを尋ねたりすることができる。 ・ 身近な人や物について紹介したり、尋ねたりすることができる。 ・ 知らないものや人について、いつ・どこなのかを尋ねたりすることができる。 ・ 数や時刻、好きなものについて尋ねたり、指示や助言をしたりすることができる。 ・ 自分の好きなことについてつながりのある文章を書くことができる。
二 学 期	・ 三人称単数現在形 ・ 代名詞 which, whose ・ Can I ...? Can you ...? ・ 現在進行形 ・ 感嘆文 ・ 道案内 ・ 不定詞 look+形容詞 ・ Would you like ...? ・ 2 学期の学習事項のまとめ	・ 自分と相手以外の人や物などについて、尋ねたり伝えたりすることができる。 ・ 自分と相手以外の人について話したり、誰のものをか尋ねたりすることができる。 ・ 身近な人に許可を求めたり、依頼したりすることができる。 ・ 今していることについて説明したり尋ねたりすることができる。 ・ 徒歩での道順を尋ねたり教えたりすることができる。 ・ したいことや、する必要のあることなどについて説明したり尋ねたりすることができる。 ・ レストランなどで、注文をしたり質問に答えたりすることができる。 ・ 好きな有名人やあこがれの人について尋ねたり、説明したりすることができる。
三 学 期	・ 一般動詞の過去形 ・ 英語での手紙の書き方 ・ be 動詞の過去形、過去進行形 There is[are] ・ What's wrong? ・ 1 年間の学習事項のまとめ ・ 物語文	・ 過去の出来事について説明したり、尋ねたりすることができる。 ・ 手紙で使う表現を確認し、自分の体験したことを表現できる。 ・ 過去の状態や気持ち、過去のある時点でしていたことについて説明することができる。人や物の場所を説明したり、尋ねることができる。 ・ 体調について尋ねたり説明したりすることができる。 ・ 思い出に残った学校行事について発表することができる。 ・ 物語を読み、場面や登場人物の心情の変化を読み取ったり、気持ちをこめて音読したりすることができる。

都幾川中学校 第2学年 「英語科」 シラバス

教科の目標

- * 基本的な英語の働きを理解し、簡単な語句や文を用いてコミュニケーションをとることができる。
- * 英語への関心を高め、主体的に学び、コミュニケーションを図ろうとする。

評価の観点・方法

【○評価の観点・☆評価方法】

○知識・技能

- ☆定期テストによる評価
- ☆単語・基本文テスト
- ☆音読テスト
- ☆パフォーマンステスト
- ☆レポートによる評価

○思考・判断・表現

- ☆定期テストによる評価
- ☆パフォーマンステスト
- ☆レポートによる評価

○主体的に学習に取り組む態度

- ☆授業中の取り組みや活動・発表のようす
- ☆提出物や課題等による評価
- ☆パフォーマンステスト

特色ある学習方法

- 生徒一人一人が楽しみながら、積極的・意欲的に取り組める授業作り
- A L Tとの会話を積極的に全員が楽しく行えるような場面設定の工夫
- ペア・グループなど学習形態の工夫
- C Dや動画等、視聴覚機器を利用した学習の工夫
- デジタル教科書を活用し、音読を重視した学習指導の工夫
- 場面に応じた自己表現活動の工夫

	学習すること	学習のねらい
一 学 期	・ 過去形等の既習事項 ・ be going to や will, SVOO, SVOC ・ 接続詞 when, if, that, because ・ 不定詞(副詞的・名詞的・形容詞的用法) It is ...+to ・ 既習事項の復習 ・ 既習事項の復習	・ これまでに学んだことを用いて、自分が経験したことを話すことができる。 ・ 休暇や週末の予定について、尋ねたり伝えたりすることができる。 ・ 好きな食べ物について、理由や考えと共に紹介することができる。 ・ 体験したことや取り組んでいきたいことなどについて尋ねたり伝えたりすることができる。 ・ 自分のいちばん好きな日本食について、その特徴や好きな理由を発表することができる。 ・ 説明文を読み、時計についての歴史を読み取ったり、説明したりすることができる。
二 学 期	・ have to, don't have to, must, must not 動名詞 ・ 疑問詞+to、主語+動詞+(人)+疑問詞+to ・ 主語+be 動詞+形容詞+that ・ 比較表現(比較級、最上級) ・ 既習事項の復習 ・ 既習事項の復習	・ 習慣やマナーについて、尋ねたり伝えたりすることができる。 ・ 身近なもの(こと)について、使い方ややり方を説明したり、自分の考えを述べたりすることができる。 ・ 身近なことについて、特徴を比較しながら説明することができる。 ・ 自分の学校や学校生活について、具体例を交えながら説明することができる。 ・ 物語を読み、場面や登場人物の心情の変化を読み取ったり、気持ちを込めて音読したりすることができる。
三 学 期	・ 受け身 ・ 既習事項の総復習 ・ 既習事項の総復習	・ 各地の世界遺産について尋ねたり紹介することができる。 ・ 自分の立場を明確にして、意見を述べることができる。 ・ 人物の伝記を読んで、時系列を整理しながら内容を理解することができる。

都幾川中学校 第3学年 「英語科」 シラバス

教科の目標

- * 基本的な英語の働きを理解し、簡単な語句や文を用いてコミュニケーションをとることができる。
- * 英語への関心を高め、主体的に学び、コミュニケーションを図ろうとする。

評価の観点・方法

【○評価の観点・☆評価方法】

○知識・技能

- ☆定期テストによる評価
- ☆単語・基本文テスト
- ☆音読テスト
- ☆パフォーマンステスト
- ☆レポートによる評価

○思考・判断・表現

- ☆定期テストによる評価
- ☆パフォーマンステスト
- ☆レポートによる評価

○主体的に学習に取り組む態度

- ☆授業中の取り組みや活動・発表のようす
- ☆提出物や課題等による評価
- ☆パフォーマンステスト

特色ある学習方法

- 生徒一人一人が楽しみながら、積極的・意欲的に取り組める授業作り
- A L Tとの会話を積極的に全員が楽しく行えるような場面設定の工夫
- ペア・グループなど学習形態の工夫
- C Dや動画等、視聴覚機器を利用した学習の工夫
- デジタル教科書を活用し、音読を重視した学習指導の工夫
- 場面に応じた自己表現活動の工夫

	学習すること	学習のねらい
一 学 期	・既習事項の復習 ・現在完了(経験) ・make + 名詞 + 形容詞の文 ・現在完了(完了) ・現在完了(継続) ・現在完了進行形 ・It is ... + for + 人 + to ~ の文 ・want + 人 + to ~ ・let[help] + 人 + 動詞の原形 ・既習事項の復習 ・既習事項の復習	・既習文法事項を使い、積極的な自己表現活動ができる。 ・経験したことを伝え合うことができる。 ・すでに終えたことや続けていることについて、聞いたり答えたりできる。 ・日本のポップカルチャーの魅力について、経験や感想と共に伝えることができる。 ・人や環境にやさしい商品について伝え合ったり、説明することができる。 ・自分達にとって大切なことなどについて、伝え合うことができる。 ・誰かにしてほしいことなどについて伝え合うことができる。 ・日本や郷土の文化などについて、詳しい情報を加えて説明することができる。 ・物語を読み、場面の変化や登場人物の心情などを理解し、気持ちを込めて音読することができる。
二 学 期	・間接疑問文 ・SVOO (what 節) ・後置修飾(現在分詞、過去分詞) ・後置修飾(接飾節) ・関係代名詞 (who, that, which) の主格、目的格 ・関係代名詞 (that) の目的格 ・既習事項の復習	・防災・安全への意識を高め、地域の一員として取るべき行動を考えて伝え合うことができる。 ・人やものを理解したり伝えたりするために、言葉に情報を加えて説明することができる。 ・情報を加えて、理想のリーダーについて紹介できる。 ・これまでの経験を振り返って活動報告を発表することができる。
三 学 期	・仮定法 ・ディベート ・既習事項の復習 ・課題英作文 ・3年間のまとめ	・架空の状況について説明したり、感想や意見を述べたりすることができる。 ・身近なテーマについて、主張とその理由を明確にしながら、ディベートをすることができる。 ・長い説明文を読み、その概要や要点を読み取ることができる。 ・自分の考えや思い、意見を理由と共に英語で書くことができる。 ・既習の単語や基本文、表現の復習をする。

教科の目標

- ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。
- ・音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

評価の観点・方法

【評価の観点】

①知識・技能

曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解しているとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。

②思考・判断・表現

音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

③主体的に学習に取り組む態度

主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

【評価の方法】

- ・実技テスト、小テスト、プリント（知識・技能）
- ・実技テスト、表現活動、プリント、発表、グループの話し合い（思考・判断・表現）
- ・記述、授業中の発言、行動観察、生徒による自己評価や相互評価、忘れ物の有無、発表、プリントなどの提出状況や内容（主体的に学習に取り組む態度）

特色ある学習方法

- ・音楽的感動の体験により、生涯にわたって音楽に親しみ、音楽を愛好する心情を持ち続けるようにする。そのために、生徒が主体的に活動できる場面を数多く設定すること、生徒の感性に訴えかける様々な素晴らしい音楽に触れさせる。
- ・創作の指導、授業形態の工夫、教材の選択、視聴覚機器の活用をしていきながら、幅広い音楽活動の経験をさせる。

	学習すること	学習のねらい
一学期	○「We'll Find The Way」「その先へ」「My Voice」「校歌」 ○「イメージと音楽」「Let's Create」 ◎「春」 ◆アルトリコーダ・LESSON1 ＊適宜教材を選択 主人は冷たい土の中に	・仲間と歌う喜びを分かち合い、音楽学習への意欲、態度を育てる。 ・イメージと音楽との関わりを感じ取ろう。 ・音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべよう。 ・リコーダーの基本的な奏法・正しい運指を習得する。
二学期	○合唱「学級選択曲」 ◎「魔王」 ◆アルトリコーダー「聖者の行進」 ○「浜辺の歌」「赤とんぼ」「歌い繋ごう日本の歌」 ＊適宜教材を選択	・合唱を通して、表現力と合唱を愛好する心情を育てる。 ・歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫する。 ・旋律の重なり合いやパートの役割を感じ取って表現を工夫する能力を育てる。 ・曲想と音楽の構造と関わりを理解して、その魅力を味わおう。
三学期	◆虫づくし、姫松、さくらさくら「六段の調」から四段箏 ＊適宜教材を選択 ◎箏曲「六段の調」 ○ソーラン節、日本の民謡、生活や社会の中の音や音楽、アジアの諸民族の音楽「My Melody」 ○卒業式に向けて「国歌」「校歌」「旅立ちの日に」全校合唱の豊かな響きを味わうとともに、心をこめて全校で歌い上げる。	・日本古来の音楽や日本の民謡、アジアの諸民族の音楽の特徴をとらえることで音楽の多様性を感じ取り、そのよさや美しさを味わいながら聴く。 ・箏の音色や響きと奏法との関わりを理解する。 ・全校合唱の豊かな響きを味わわせるとともに、卒業式で心を込めて全校で歌い上げることのすばらしさを体験させる。
	状況により変更あり	

教科の目標

- ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ・音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

評価の観点・方法

【評価の観点】

①知識・技能

曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。

②思考・判断・表現

曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

③主体的に学習に取り組む態度

主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

【評価の方法】

- ・実技テスト、小テスト、プリント（知識・技能）
- ・実技テスト、表現活動、プリント、発表、グループの話し合い（思考・判断・表現）
- ・記述、授業中の発言、行動観察、生徒による自己評価や相互評価、忘れ物の有無、発表、プリントなどの提出状況や内容（主体的に学習に取り組む態度）

特色ある学習方法

- ・音楽的感動の体験により、生涯にわたって音楽に親しみ、音楽を愛好する心情を持ち続けるようにする。そのために、生徒が主体的に活動できる場面を数多く設定すること、生徒の感性に訴えかける様々な素晴らしい音楽に触れさせる。
- ・創作の指導、授業形態の工夫、教材の選択、視聴覚機器の活用をしていきながら、幅広い音楽活動の経験をさせる。

	学習すること	学習のねらい
一 学 期	○「明日を向いて」「翼をください」「MY Voice」 ○「リズムゲーム、リズムアンサンブル、リズムチャレンジ」 「My Melody」 ◆アルトリコーダーを演奏しよう LESSON 2, 3 *適宜教材を選択して扱ってもよい。 ◎鑑賞「フーガ ト短調」	・曲想の変化を感じ取って、響きのある声で合唱しよう。パートの役割を理解して合唱しよう ・言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう。 ・楽器の音色や響きを奏法との関わりについて理解し、生かした曲にふさわしい器楽表現を創意工夫しながら演奏しよう ・旋律が重なり合っていくおもしろさを味わう。
二 学 期	○「学級選択曲」 ○「夏の思い出」または「荒城の月」 ○「サンタルチア」 ◎鑑賞「アイーダ」 ・指揮をしてみよう！ ○歌い繋ごう日本の歌 *適宜教材を選択 ◎鑑賞「勸進帳」から ○歌唱 長唄「勸進帳」から ◆「寄せの合方」によるリズムアンサンブル	・合唱への参加を通して、表現力と合唱を愛好する心情を育てる。 ・情景を思い浮かべながら、言葉を大切に、歌おう。 ・曲想を生かして表情豊かに歌おう。 ・オペラに親しみ、その音楽を味わおう。 ・曲の構成を理解して、曲種に応じた歌唱表現を工夫する。 ・歌舞伎に親しみ、その音楽を味わおう。声や音楽の特徴を生かして長唄を唄おう。
三 学 期	◎世界の諸民族の音楽 Let' s Create! ◆Session1 卒業式に向けて「心通う合唱」国歌「君が代」「校歌」. 全校合唱の豊かな響きを味わうとともに、心をこめて全校で歌い上げる。	・世界のさまざまな声の音楽を味わおう。 ・声の特徴や重なり方、構成を工夫してリズムアンサンブルをつくろう。 ・音色や音の重なり方の特徴を理解し、アンサンブルを楽しもう。 ・全校合唱の豊かな響きを味わわせるとともに、心を込めて全校で歌い上げることのすばらしさを体験させる。
状況により変更あり		

教科の目標

- ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。
- ・音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

評価の観点・方法

【評価の観点】

①知識・技能

曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。

②思考・判断・表現

曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

③主体的に学習に取り組む態度

主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

【評価の方法】

- ・実技テスト、小テスト、プリント（知識・技能）
- ・実技テスト、表現活動、プリント、発表、グループの話し合い（思考・判断・表現）
- ・記述、授業中の発言、行動観察、生徒による自己評価や相互評価、忘れ物の有無、発表、プリントなどの提出状況や内容（主体的に学習に取り組む態度）

特色ある学習方法

- ・音楽的感動の体験により、生涯にわたって音楽に親しみ、音楽を愛好する心情を持ち続けるようにする。そのために、生徒が主体的に活動できる場面を数多く設定すること、生徒の感性に訴えかける様々な素晴らしい音楽に触れさせる。
- ・創作の指導、授業形態の工夫、教材の選択、視聴覚機器の活用をしていながら、幅広い音楽活動の経験をさせる。

	学習すること	学習のねらい
一学期	○「花」「花の街」 My Voice! ◆リコーダーLESSON4 *適宜教材を選択 ◎鑑賞「ブルタバ」 「社会を映し出す音楽」 「My Melody」	・情景を思い浮かべながら、言葉を大切に合唱しよう。詩や曲の背景を理解して歌おう。 ・作曲者の思いを感じ取りながら、音楽を味わおう。 ・楽器の音色に親しみながらオーケストラの響きを味わおう。
二学期	○学級選択曲 「指揮をしてみよう」 ◆「千の風になって」 「Let's Create!」 ◆クラIPPINGラプソディー第1番 ◎能「敦盛」 「中之舞」に挑戦しよう 「伝統音楽の魅力を見つけよう」	・合唱への参加を通して、いろいろな合唱曲に取り組み、表現力と合唱を愛好する心情を育てる。 ・楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい器楽表現を創意工夫し、合わせて演奏する。 ・能に親しみ、その音楽を味わおう。 ・日本の伝統音楽の魅力や郷土の音楽のよさを味わい、我が国の音楽に親しむ心情を育てる。
三学期	○「伝統音楽の魅力を見つけよう」 謡「敦盛」から ◎ポピュラー音楽 ポピュラー音楽のジャンル（海外編） ポピュラー音楽のジャンル（日本編） 「Hey Jude」 「ルールを守って音楽を楽しもう！」 「生活や社会の中の音や音楽」	・音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ・ポピュラー音楽を聴いて、そのよさを味わおう。 ・曲想を味わい、言葉の特性を理解して、曲にふさわしい表現を工夫する。 ・声や音楽の特徴を生かして、歌唱表現を工夫しよう。
期	○「心通う合唱」 仲間とともに、表情豊かに合唱しよう 国歌「君が代」「校歌」「旅立ちの日に」「卒業生の歌」 全校合唱の豊かな響きを味わうとともに、心をこめて全校で歌い上げる。	・言葉と旋律とのかかわりやパートの役割と全体の響きとのかかわりを理解し、表現を工夫する。 ・全校合唱の豊かな響きを味わわせるとともに、心を込めて全校で歌い上げることのすばらしさを体験させる。
状況により変更あり		

保健体育科のねらいと評価

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

「具体的には」

○ 知識・技能

- ・運動の技能が優れている。
- ・今ある力を精一杯向上させる。
- ・運動の基礎基本をしっかり身に付けし、実際に向上することができる。

- ・運動の方法や健康・安全について理解できる。
- ・ルールや技術的な知識をしっかり学び生かすことができる。
- ・体育的知識（トレーニング理論・スポーツ理論）を習得し生かせる。

○ 思考・判断・表現

- ・自己の評価を見つけ、解決の方法を工夫できる。
- ・目標を決め、計画を立て、工夫して取り組む。
- ・自分勝手になく、仲間と協力して楽しい活動を進める。
- ・健康に関心を持ち自分の健康管理ができる。
- ・安全に注意し、危険をさけることができる。

○ 学びに向かう力、人間性

- ・進んで運動を実践し喜びを味わうことができる。
- ・体力づくりに関心をもち、意欲的に運動する。
- ・集中して頑張ると共に最後まで力強くやりぬく。
- ・スポーツが好きで、楽しく運動することができる。
- ・授業の決まりや集団行動のマナーをしっかり守って、活動する。

*保健

- ・健康の成り立ち・身体の発育発達・異性の尊重・心身の成長等を中心に行う。

*新体力テスト

体力テストはⅠ学期・Ⅱ学期の2回行います。

元気よく意欲的に参加しよう

授業の約束やルールを守ろう。

仲間と協力して活動し、自分の「宝」を発見しよう。

楽しみながら体力・技能を向上させよう。

	学習内容	学習のねらい
Ⅰ 学 期	体育に関する知識 陸上 ・短距離 ・ハードル 体力テスト① 水泳 ・クロール ・平泳ぎ ・背泳ぎ ・リレー	・中学校の体育についてのO T ・種目の特性を生かし、体力向上を視野に入れて活動する。 ・自己の体力と適性を知る。 ・できる泳ぎで競争や向上を楽しむ。 ・向上した泳ぎで、タイムや競争で楽しむ。
Ⅱ 学 期	器械運動 マット 球技 Ⅰ 陸上 ・中、長距離走 新体力テスト 武道・ダンス 体づくり運動	・基本的な技を滑らかに行い、これらを組み合わせることができる。 ・自己の筋力、持久力、スピードのバランスをとりながら効率のよいフォームで走る。 ・自己の体力と適性を知る。 武道 ・基本動作、対人技能を使って試合を楽しむ ダンス ・曲のイメージからダンスを工夫し、創作してみんなで踊り表現し楽しむ。 ・ねらいに関する運動を工夫して行い、体力を向上させる。
Ⅲ 学 期	球技Ⅰ バドミントン 球技Ⅱ ソフトボール	・バドミントンの基本技術・マナーを身に付け、特性を生かした活動ができるようにする。 ・技能の向上に応じて、スペースを考えた攻防を展開する。 ・ソフトボールの基本技術・マナーを身に付け、特性を生かした活動ができるようにする。 ・今持っている技能を使って色々なチームと対戦しゲームを楽しむ。 ・技術の向上に応じて、作戦や練習を工夫してゲームを楽しむ。

保健体育科のねらいと評価

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

「具体的には」

○ 知識・技能

- ・運動の技能が優れている。
- ・今ある力を精一杯向上させる。
- ・運動の基礎基本をしっかり身に付けし、実際に向上することができる。

- ・運動の方法や健康・安全について理解できる。
- ・ルールや技術的な知識をしっかり学び生かすことができる。
- ・体育的知識（トレーニング理論・スポーツ理論）を習得し生かせる。

○ 思考・判断・表現

- 自己の評価を見つけ、解決の方法を工夫できる。
- ・目標を決め、計画を立て、工夫して取り組む。
- ・自分勝手になく、仲間と協力して楽しい活動を進める。
- ・健康に関心を持ち自分の健康管理ができる。
- ・安全に注意し、危険をさけることができる。

○ 学びに向かう力、人間性

- ・進んで運動を実践し喜びを味わうことができる。
- ・体力づくりに関心をもち、意欲的に運動する。
- ・集中して頑張ると共に最後まで力強くやりぬく。
- ・スポーツが好きで、楽しく運動することができる。
- ・授業の決まりや集団行動のマナーをしっかり守って、活動する。

*保健

・病気の成り立ち・傷害の発生要因・応急手立て等を中心に行う。

*新体力テスト

体力テストは1学期・2学期の2回行います。

元気よく意欲的に参加しよう

授業の約束やルールを守ろう。

仲間と協力して活動し、自分の「宝」を発見しよう。

楽しみながら体力・技能を向上させよう。

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	体育に関する知識 陸上 ・短距離 ・ハードル 体力テスト① 水泳 ・クロール ・平泳ぎ ・背泳ぎ ・リレー	・中学校の体育についてのOT ・種目の特性を生かし、体力向上を視野に入れて活動する。 ・自己の体力と適性を知る。 ・できる泳ぎで競争や向上を楽しむ。 ・向上した泳ぎで、タイムや競争で楽しむ。
2 学 期	器械運動 マット 球技 I 陸上 ・中、長距離走 新体力テスト 武道・ダンス 体づくり運動	・基本的な技を滑らかに言い、これらを組み合わせることができる。 ・自己の筋力、持久力、スピードのバランスをとりながら効率のよいフォームで走る。 ・自己の体力と適性を知る。 武道 ・基本動作、対人技能を使って試合を楽しむ ダンス ・曲のイメージからダンスを工夫し、創作してみんなで踊り表現し楽しむ。 ・ねらいに関する運動を工夫して言い、体力を向上させる。
3 学 期	球技 I バドミントン 球技 II ソフトボール	・バドミントンの基本技術・マナーを身に付け、特性を生かした活動ができるようにする。 ・技能の向上に応じて、スペースを考えた攻防を展開する。 ・ソフトボールの基本技術・マナーを身に付け、特性を生かした活動ができるようにする。 ・今持っている技能を使って色々なチームと対戦しゲームを楽しむ。 ・技術の向上に応じて、作戦や練習を工夫してゲームを楽しむ。

保健体育科のねらいと評価

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

「具体的には」

○ 主体的に学習に取り組む態度

- ・進んで運動を実践し喜びを味わうことができる。
- ・体力づくりに関心をもち、意欲的に運動する。
- ・集中して頑張ると共に最後まで力強くやりぬく。
- ・スポーツが好きで、楽しく運動することができる。
- ・授業の決まりや集団行動のマナーをしっかり守って、活動する。

○ 思考・判断・表現

- ・自己の評価を見つけ、解決の方法を工夫できる。
- ・目標を決め、計画を立て、工夫して取り組む。
- ・自分勝手になく、仲間と協力して楽しい活動を進める。
- ・健康に関心をもち自分の健康管理ができる。
- ・安全に注意し、危険をさけることができる。

○ 知識・技能

- ・運動の技能が優れている。
- ・今ある力を精一杯向上させる。
- ・運動の基礎基本をしっかり身に付けし、実際に向上することができる。
- ・運動の方法や健康・安全について理解できる。
- ・ルールや技術的な知識をしっかり学び生かすことができる。
- ・体育的知識（トレーニング理論・スポーツ理論）を習得し生かせる。

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	体育に関する知識 陸上 ・短距離 ・ハードル 器械運動 マット 体力テスト① 水泳 ・クロール ・平泳ぎ ・背泳ぎ ・バタフライ ・リレー	・中学校の体育についての〇Ｔ ・滑らかな動きで速く走れるようにする。 ・種目の特性を生かし、体力向上を視野に入れて活動する。 ・基本的な技を滑らかに行い、これらを組み合わせることができる。 ・自己の体力と適性を知る。 ・できる泳ぎで競争や向上を楽しむ。 ・向上した泳ぎで、タイムや競争で楽しむ。
2 学 期	球技Ⅰ バドミントン 陸上 ・中、長距離走 新体力テスト 武道・ダンス 体づくり運動	・バドミントンのルールやマナーを理解してゲームを楽しむ。 ・技能の向上に応じて、スペースを考えた攻防を展開する。 ・自己の筋力、持久力、スピードのバランスをとりながら効率のよいフォームで走る。 ・自己の体力と適性を知る。 武道 ・基本動作、対人技能を使って試合を楽しむ ダンス ・曲のイメージからダンスを工夫し、創作してみんなで踊り表現し楽しむ。 ・ねらいに関する運動を工夫して行い、体力を向上させる。
3 学 期	球技Ⅱ ソフトボール	・ソフトボールの基本技術・マナーを身に付け、特性を生かした活動ができるようにする。 ・今持っている技能を使って色々なチームと対戦しゲームを楽しむ。 ・技術の向上に応じて、作戦や練習を工夫してゲームを楽しむ。

*保健

- ・感染症の成り立ち・医療機関の意義・生活環境の成り立ち等を中心に行う。

*新体力テスト

体力テストは1学期・2学期の2回行います。

元気よく意欲的に参加しよう

授業の約束やルールを守ろう。

仲間と協力して活動し、自分の「宝」を発見しよう。

楽しみながら体力・技能を向上させよう。

第1学年 「美術科 シラバス」

教科の目標

- 楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を培う。
- 心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- 対象を深く観察する力や感性・想像力を高める。
- 豊かに発想し構想する態度を身につけ、基礎的技能を身につける。
- 多様な表現方法や造形要素に関心を持つとともに、創意工夫し美しく表現する力を育てる。

評価の観点・方法

1. 知識・技能

表現の技能を身につけ、造形感覚や感性などを働かせ、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。

下絵・作品

2. 思考・判断・表現

感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。

鑑賞・アイデアスケッチ・制作カード

3. 主体的に学習に取り組む態度

主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする。

鑑賞・授業態度・発言・提出物・準備

特色のある学習方法

- 美術に親しみ、愛好するための環境で、気軽に表現できるようにする。
- 表現することが楽しく、よりよいものを良いと互いに認め合う場の設定。
- スケッチすることから始め、生涯に渡って美術を愛好する意欲付けに重点を置く。
- 主体的に取り組み、自己表現の喜びを味わう。
- 他の作品のよさに気づき、感じる力を伸ばす。

年間の学習とねらい

	学習すること	学習のねらい
一 学 期	・美術との出会い (オリエンテーション)	・美術の意味を再認識させ、美術的な活動への興味、関心、意欲を高めさせる。
	・絵本「スイミー」 レオ・レオーニ (鑑賞)	・言葉では表すことができないもの、いろいろな考えや思いや役割を絵本を通して学ぶ。
	・鉛筆デッサンの練習 (絵)	・鉛筆のタッチや陰影で対象を描くことに体験する。
二 学 期	・体育館シューズを描く (絵)	・これから使う体育館シューズへの気持ちを表現する。 ・対象を丁寧に「見る」「観察する」ことで、これまで気づかなかった発見や物を大切にする気持ち、体育館シューズを大切にする気持ちを養い、自分らしい表現力を体験し身につける。
	・心ひかれる風景 (鑑賞)	・単に物を観察するだけでなく、自分の心で見た感動も表現していることも理解する。
	・漢字アート (デザイン)	・情報を伝える文字に関心をもち、レタリングやデザイン、色の効果を楽しみ、生活に活かす工夫を体験する。 ・色の性質や分類について基礎的な知識を学習し、配色などの応用力をつける。 ・色が、私たちの感覚や感情に及ぼす影響を体験し理解する。
三 学 期	・浮世絵とジャポニズ (鑑賞)	・日本文化の素晴らしさを伝える。
	・彫刻動物園 粘土制作 (彫)	・材料の生かし方や加工の方法、用具の扱い方などの技術を習得できるようにする。 ・形や色を工夫し表現する。 ・自由に主題を発想し独自のイメージを追及できるようにする。

第2学年 「美術科 シラバス」

教科の目標

年間の学習とねらい

- 主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深める。
- 心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- 対象を深く見つめる力を一層高め、感性・想像力を一層高める。
- 独創的・総合的な見方考え方を培う。
- 豊かな発想や構想する能力を伸ばし、表現方法を創意工夫する。
- 創造的に表現する能力を伸ばす。
- 自然、美術作品、文化遺産などについての理解や見方を深める。
- 良さや美しさを感じ取り、味わう鑑賞の能力を高める。

評価の観点・方法

1. 知識・技能
表現の技能を身につけ、造形感覚や感性などを働かせ、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。
下絵・作品
2. 思考・判断・表現
感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。
鑑賞・アイデアスケッチ・制作カード
3. 主体的に学習に取り組む態度
主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする。
鑑賞・授業態度・発言・提出物・準備

特色のある学習方法

- 美術に親しみ、愛好するための環境で、気軽に表現できるようにする。
- 表現することが楽しく、よりよいものを良いと互いに認め合う場の設定。
- スケッチすることから始め、生涯に渡って美術を愛好する意欲付けに重点を置く。
- 主体的に取り組み、自己表現の喜びを味わう。
- 他の作品のよさに気づき、感じる力を伸ばす。

	学習すること	学習のねらい
一 学 期	・西洋の美術 ・ルネッサンスが求めたもの（鑑賞） ・自画像～自分と向き合う～ (絵)	・美術の意味を再認識させ、美術的な活動への興味、関心、意欲を高めさせる。 ・時代背景や美術文化の継承と創造について考える。 ・自分の外見、内面を深くみつめ、今の気持ちや考えていることを表現することに関心を持ち、自己表現が自己肯定につながる経験をする。
二 学 期	・体験できるデジタルアート（鑑賞） ・木彫手鏡（工芸）	・サイエンスとアートの融合のデジタルアートをチームラボから学ぶ。 ・一枚の板材から多様な作品ができることを理解し、使用する人の立場や用途に応じた機能美のある作品を発想する。 ・木材を有効に使い、用具を活用し、木目や木の肌さわりを生かす工夫をする。
三 学 期	・生活を豊かにデザインタンブラー(デ) ・「ゲルニカ」ピカソ（鑑賞）	・身近に使用する物のデザインに関心を持ち、生活を豊かにするデザインを考える。 ・ピカソの描いた「ゲルニカ」がどのような時代背景や理由で描かれたのかを学ぶ。

第3学年 「美術科 シラバス」

教科の目標

年間の学習とねらい

○主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深める。 ○心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 ○対象を深く見つめる力を一層高め、感性や想像力を一層高める。 ○独創的・総合的な見方、考え方を培う ○豊かな発想や構想する能力を伸ばし表現方法を創意工夫する。 ○創造的に表現する能力を伸ばす。 ○自然、美術作品、文化遺産などについての理解や見方を深める。 ○良さや美しさを感じ取り、味わう鑑賞の能力を高める。		学習すること	学習のねらい
評価の観点・方法 1. 知識・技能 表現の技能を身につけ、造形感覚や感性などを働かせ、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。 下絵・作品 2. 思考・判断・表現 感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。 鑑賞・アイデアスケッチ・制作カード 3. 主体的に学習に取り組む態度 主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする。 鑑賞・授業態度・発言・提出物・準備	一学期	・新たな出会いをもとめて 現代美術の心 (鑑賞) ・心の中の世界を表そう (絵)	・作品に込められた作者の意図や信条を表現技法や素材の生かし方などから素直に感じとらせる。 ・感性や想像力を働かせて、自分の制作したいイメージにあった方法を選択できるようにさせる。
特色のある学習方法 ○美術に親しみ、愛好するための環境で、気軽に表現できるようにする。 ○表現することが楽しく、よりよいものを良いと互いに認め合う場の設定。 ○スケッチすることから始め、生涯に渡って美術を愛好する意欲付けに重点を置く。 ○主体的に取り組み、自己表現の喜びを味わう。 ○他の作品のよさに気づき、感じる力を伸ばす。	二学期	・環境をデザインする。 アントニ・ガウディ (鑑賞) ・立体造形として表そう BOX ART (彫)	・世界遺産のサグラダファミリア教会堂を始めとするガウディの作品群に関心を持つ。 ・目的にあった構造とデザインを考えさせ、アイデアから完成まで計画的に制作できる力を養う。
	三学期	・点描アート (絵) ・現代美術 (鑑賞)	・美術を通して、集中することの素晴らしさを体感する。 ・現代美術に興味をもち作者の心情や考えを理解しようとする。

技術・家庭科 シラバス (技術分野) ※内容が変更になることもあります。

		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
教科の目標		ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料を加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力を育てる。		
教科における 学年目標		○材料と加工の技術を客観的に評価し最適な活用方法を考える力や実践する態度を育てる。 ○コンピュータの基礎的・基本的な構成や情報モラルなどについて、技術的に理解し実践する態度を身につける。	○エネルギー変換に関する技術を客観的に評価し最適な活用方法を考える力や実践する態度を育てる。 ○計測・制御の技術の基本的な仕組みを知り、目的に応じた簡単なプログラムを作成する力を養う。 ○メディアの技術の特徴や利用方法を知り、多様なメディアを複合し、表現・発信ができる。	○生物育成の技術の特徴や利用方法を知り、技術を評価し最適な活用方法を考える力や実践する態度を育てる。 ○情報化社会とモラルを身につける。 ○技術を客観的に評価し最適な活用方法を考える力や実践する態度を育てる。
年間授業時数		35時間（週2時間）	35時間（週2時間）	17.5時間（隔週1時間） ※3年のみ3期
学習 内容 ・ 題材	前期	A 材料と加工に関する技術 ○ガイダンス ○材料について ○加工 ○製作品の設計・製作 ○材料と加工の技術の評価と活用 D 情報に関する技術 ○コンピュータの仕組みを知る ○情報モラルを身につける。	B エネルギー変換に関する技術 ○電気機器の保守点検方法 ○エネルギー変換の技術の評価と活用 ○私たちの生活のエネルギーについて D 情報に関する技術 ○身近なプログラム制御を知る。 ○計測・制御システムについて ○プログラムの役割について ○プログラムを利用した作品	A 材料と加工に関する技術 ○金属の加工法 ○製作品の加工 ○材料と加工の技術の評価 C 生物育成に関する技術 ○生物育成の技術と知識の習得 ○栽培計画と管理作業 ○生物育成に関する技術の評価と活用 D 情報に関する技術 ○デジタル作品の構成を知る。 ○マルチメディアの技術の評価と活用 これからの技術について ○3年間の技術の評価と活用
	後期		※前期と同様	
評価 の 観点	知識 技能	・生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけている。		
	思考 判断 表現力	・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し表現するなど課題を解決する力がある。		
	主体的に学習に取り組む態度	・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造しようとする実践的な態度である。		
評価 方法	知識 技能	○知識：テスト ○技能：作品の総合評価		
	思考 判断 表現力	○作品の工夫		
	主体的に学習に取り組む態度	○授業態度 ○積極的に発言 ○わすれものをしない。		

都幾川中学校 第1学年「技術・家庭科（家庭分野）」シラバス

家庭科の目標

生活の営みや技術に関する見方・考え方を働かせ、生活の技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点（方法）

- ・知識・技能
- ・思考・判断・表現
- ・主体的に取り組む態度

積極的に取り組む態度、作業や実習、実習計画立案への積極性、作品・学習プリント・レポートの記入および提出状況、定期試験などを総合的に評価する。

特色ある学習方法

- ・ものづくりや衣食住などに関する実践的・体験的な学習をおこなう。
- ・実践的・体験的な学習を通して、創意工夫する力を育てる。
- ・自ら課題を見だし、解決を図る問題解決的な学習の充実を図る。

	学習内容	学習のねらい
家庭科	○家庭分野のガイダンス ○目的に応じた衣服の選択 ○日常着の手入れと保管 ○生活を豊かにする物の製作 ○持続可能な衣生活 ○住まいのはたらきとこちよさ ○安全な住まいで安全な暮らし ○持続可能な住生活	○3年間の学習内容を知り、見通しを持つ ○衣服の役割や着方を理解する ○日常着の手入れや補修ができる ○衣服の表示の意味を理解する ○縫製の基礎を理解し、布を用いた作品を製作する ○住まいの役割と空間の使い方を理解する ○家庭内の事故や災害など安全を考えた住まいについて理解する ○持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方を知る。

都幾川中学校 第2学年「技術・家庭科（家庭分野）」シラバス

家庭科の目標

生活の営みや技術に関する見方・考え方を働かせ、生活の技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点（方法）

- ・知識・技能
- ・思考・判断・表現
- ・主体的に取り組む態度

積極的に取り組む態度、作業や実習、実習計画立案への積極性、作品・学習プリント・レポートの記入および提出状況、定期試験などを総合的に評価する。

特色ある学習方法

- ・ものづくりや衣食住などに関する実践的・体験的な学習をおこなう。
- ・実践的・体験的な学習を通して、創意工夫する力を育てる。
- ・自ら課題を見だし、解決を図る問題解決的な学習の充実を図る。

	学習内容	学習のねらい
家庭科	○食事の役割と食生活 ○中学生に必要な栄養を満たす食事 ○さまざまな食品とその選択 ○日常食の調理 ○肉、魚、野菜の調理 ○地域の食文化 ○持続可能な食生活 ○家庭生活と消費 ○購入・支払いと生活情報 ○消費者被害と消費者の自立 ○持続可能な社会	○食事の役割を理解し、毎日の食事に関心を持つ。 ○中学生の身体的特徴を理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。 ○生鮮食品と加工食品の特徴を理解し食品の安全や情報に関心を持って正しい選択ができる ○おいしさと調理の関係および調理の手順を理解し簡単な日常食の調理ができる ○環境に配慮した食生活の工夫を心がける ○消費生活のしくみを理解する ○生活情報の収集や活用の仕方を理解する ○消費者被害の予防方法を理解し、自立した消費者をめざす ○SDGsの取り組みを考える

都幾川中学校 第3学年「技術・家庭科（家庭分野）」シラバス

家庭科の目標

生活の営みや技術に関する見方・考え方を働かせ、生活の技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点（方法）

- ・知識・技能
- ・思考・判断・表現
- ・主体的に取り組む態度

積極的に取り組む態度、作業や実習、実習計画立案への積極性、作品・学習プリント・レポートの記入および提出状況、定期試験などを総合的に評価する。

特色ある学習方法

- ・ものづくりや衣食住などに関する実践的・体験的な学習をおこなう。
- ・実践的・体験的な学習を通して、創意工夫する力を育てる。
- ・自ら課題を見だし、解決を図る問題解決的な学習の充実を図る。

	学習内容	学習のねらい
家庭科	○自分の成長と家族・家庭生活 ○幼児の生活と家族 ○遊びの必要性和遊びを支える環境 ○幼児とのかかわり ○家庭生活と地域のかかわり ○持続可能な家庭生活 ○3年間を振り返って	○自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考える ○幼児の心身の発達の特徴や基本的生活習慣の重要性を理解し、家族の役割について考える ○実践的・体験的な活動を通して、遊びの意義を理解する ○幼児との触れ合い体験を通して幼児の成長や生活習慣の特徴を理解する ○地域との相互のかかわりを理解する ○地域で活動する高齢者とかかわりを考える ○誰もが尊重される家庭・地域の生活をめざして、課題を見つけ、実践的に取り組む姿勢を養う ○学習した内容をこれからの生活に生かそうとする力を養う